

金ケ崎町社会教育指導員等の研修計画（20150616）

1 金ケ崎町生涯教育の特色

金ケ崎町は、「人間らしい生活のあり方」を文化ととらえ、その実現を生涯教育に求め、昭和54年6月に「生涯教育の町」を宣言した。町民の学習意欲を啓発し、自主的学習意欲を尊重しながら学ぶ条件を整え、町民の学習活動を支援する立場から、「生涯学習」ではなく「生涯教育」との考えである。「まちづくりは人づくり」の基本理念で、「全ての世代に生きがいのある生活の確保、年代に応じ、それぞれの能力・個性に応じた生きがいの確保」を掲げ、豊かで生きがいのある生涯教育という考え方でまちづくりを進めている。

平成 26 年度に「生涯教育の町宣言」35 周年を迎えた金ケ崎町は、全国的にも生涯教育推進の先導的な役割を担ってきた。生涯教育の理念のもと、学校教育、社会教育、文化、スポーツ、社会福祉、職業能力開発等相互に関連する多様な施策を、町をあげて積極的に展開し、住民が主役のまちづくりを推進してきた。

2 金ケ崎町生涯教育の目指す方向性

生涯教育 40 周年に向けた新たな展開として、子どもの健やかな成長を目指した「子育て」、食生活や運動を通じた健康づくりを目指す「食育」、地域課題の解決や地域づくりの担い手づくりを目指す「地育」を重点に掲げて取り組んでいる。また、生きがいのある人生を送るための自己実現を図るとともに、学んだ成果をまちづくりに活かす「知の循環型社会」の構築を目指している。

3 社会教育指導員の現状

(1) 平成 27 年度から各地区生涯教育センター（公民館）の社会教育指導員を 1 人増員の 2 人体制としており、非常勤の所長 1 人と社会教育指導員 2 人が多様な事業に取り組んでいる。

(2) 社会教育指導員は、各事業、自治会連合会等との連携事業など、幅広い業務を担当している。

(3) 社会教育指導員は未経験者も多く、専門性や実践力を高めるための研修が必要である。

平成27年度金ケ崎町社会教育指導員等研修実施要綱

1 研修の目的

地域活動の活性化を図るため、地域コミュニティを牽引する人材を育成する。

また、課題解決に向けてグループ討議を行うことにより、今後の社会教育推進に活かすことができるようにする。

2 期 日 平成27年6月～平成28年1月

3 時 間 午後1時30分～午後4時30分（3時間）

4 場 所 金ケ崎町中央生涯教育センター他

5 対 象 社会教育指導員16人、文化財調査員2人

6 協力機関 岩手県立生涯学習推進センター

7 内 容

金ケ崎町「住民主役の協働のまちづくり」を支える関係職員の実践的研修のあり方について(研修体系)より

(1) 主催研修

①「これからの生涯教育と金ケ崎町」

町内の生涯教育上の課題について共通理解を図り、課題解決に向けた協議等を通して職員同士の連携促進を図る。

また、日常の業務に役立つ実践的な知識・技能の習得を目的として研修を実施する。

②「地域づくりワークショップー地域コミュニティの活性化ー」

地域コミュニティ活性化のため、社会教育指導員の知識、技術、経験を地域活動に生かす手法について学び、地域の未来を形成する事業の推進を図る。

③「深い学びを支える社会教育・公民館と力量形成」

生涯教育センターや公民館での住民の学びの価値について講義を聴き、深い学びをどのようにしていくのか、職員の現代的役割についての意識を高める。

また、事業プログラム作成の研修を通し、地域の教育力向上について考える機会とする。

④「むすぶ・つなぐー社会教育関係職員の仕事ー」

地域コミュニティ拠点としての公民館機能を活性化するため、公民館運営に必要な基礎的かつ実践的な知識及び技術等について研修を行い、公民館職員としての資質向上及び相互の連携を図る。

また、職員同士が意見交換を行い自由にネットワークを築くことで、事業の知識や業務等のヒントを得る。

⑤「絆でつながる社会教育・生涯学習」

公民館職員が集い、今年度の事業や活動を振り返ることにより公民館の抱える課題や、現場の優れた実践を通して、これからも公民館が地域社会の健全な発展に寄与し、地域に必要とされる施設であることを確認する。

⑥「地域の実情に応じた社会教育の視点」

社会教育推進上の現代的課題や生涯学習振興上の課題についての講話を聞き、社会教育関係職員としての自覚と役割を身につける。

No.	月日	研修名	内 容
1	6/19 (金)	「これからの生涯教育と金ケ崎町」	○基調講演（町長） 40分 ・町の目指すべき方向性について ・生涯教育センター職員に期待すること ○講義（岩手県立生涯学習推進センター） 90分 「効果的な広報・周知について」 ・チラシや情報誌作成、住民への周知の効果的な方法等 ○グループ討議 30分 ・目標の設定・共有「これからの研修で学びたいこと」 (仮)
2	7月	「地域づくりワークショップー地域コミュニティの活性化ー」	○講義（岩手県立大学教授） 「地域づくり計画について」
3	7/17 (金)	「深い学びを支える社会教育・公民館と現代的役割」	○講義（文科省） 90分 「深い学びを支える社会教育、公民館」 ・公民館での学びの価値 ・職員の仕事と公民館、職員の力量形成について ○講義（岩手県立生涯学習推進センター） 90分 「企画・立案・運営について」 ・事業プログラムの企画・立案・運営

4	8月下旬	「むすぶ・つなぐー社会教育関係職員の仕事ー」	<p>○講義（岩手県立生涯学習推進センター）60分 「公民館について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連法と条例・規則 ・公民館の現状と課題 ・職員の仕事と役割 ・公民館とは何か <p>○講義（岩手県立生涯学習推進センター）110分 「企画・立案・運営について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業プログラムの企画・立案・運営 <p>*研修したい内容、研修してもらいたい内容または、ワールドカフェ等（地区センター事業企画、情報交換）</p>
5	11月中旬	「絆でつながる社会教育・生涯学習」	<p>○平成27年度事業の振り返り 100分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人約5分発表 <p>○グループ討議 60分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どのような社会教育事業を展開するか」「研修の中で気づいたこと」（仮）
6	1/12（火） 1/13（水）	<p>「地域の実情に応じた社会教育の視点」 基調講演（文科省）</p> <p>1/12 午後 <受講対象> 社会教育指導員、関係職員等</p> <p>1/13 午前 小中学校職員、教育委員、自治会長、地区センター所長、社会教育指導員、関係職員等 (約150人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1/12 <p>○基調講演（文科省）90分～120分 「学びによる地域活性化、学び続ける社会に向けて」（仮）</p> <p>○基調講演（教育長）30分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校との関わり、学社連携について <ul style="list-style-type: none"> ・1/13 <p>○基調講演（文科省）90分～120分 「地域と共に歩む学校ーコミュニティースクールと放課後子供総合プランー」（仮）</p>

（2）研修派遣

①岩手県生涯学習推進センター等が開催する研修への派遣

（7月対人スキルアップ研修、8月事業プログラム研修、9月資質向上研修 等）

②その他、生涯学習、生涯スポーツ、文化財保護等の関係機関が実施する研修への派遣

(3) 実践研修

今年度は、地域づくり大学・かねがさき校を開校し、従来は無かった各生活圏単位の新たな地域づくり計画の策定を行うこととしている。開校の目的等は以下のとおりであり、生活圏単位で開催を予定していることから、各地区生涯教育センターの社会教育指導員には、同じく計画策定方法を学ぶとともに、地域団体が主体的に活動を推進していくための指導、助言を行う立場であるとの自覚のもと実践研修に参加する。生活圏単位の地域づくり計画を策定することで、生活圏と単位自治会の役割も明確化され、単位自治会で作成する「地域づくり計画」の指導、助言にも役立てられるように取り組む。

1 地域づくり大学開校の目的

- ①自主的及び主体的に活動を継続できる地域（自治会、生活圏）を育成する
- ②その活動を支える住民を育成する

2 大学の内容

- ①生活圏単位（地区公民館ごと）における地域づくり計画策定に向けた学習の場の提供、策定支援
- ②生活圏単位の自治会連合会、地域活性化委員会、地区生涯教育センターの重複している役割の見直し（住民が活動しやすい場の提供と地区事業の見直し）
- ③自治会ごとの地域づくり計画策定に向けた学習の場の提供、策定支援

3 大学開校のカリキュラム

※現在県立大学との協働研究テーマとして申請していることから、開催日程については未定であるとともに内容の変更の可能性もある。

第1回 講義／地域づくり計画の必要性を再確認

第2回 以降ワークショップ（生活圏ごと）

内容：自治会連合会、地域活性化委員会、地区センターの事業の洗い出し

第3回 内容：第2回続き、重複事業の適正化

第4回 内容：事業運営の本来姿、3者の関わり、住民の関わりを整理

第5回 内容：話し合ってきた内容について、今後取り組み方針、内容を整理
（＝地域づくり計画）

○資料 金ケ崎町「住民主役の協働のまちづくり」を支える関係職員の実践的研修のあり方について(研修体系)

No	分類	研修項目	研修内容の例
1	基本的な知識や技能に関わる研修項目	社会教育関係職員としての心構え	職員としての姿勢や職務、仕事の進め方等
2		社会教育と生涯学習の定義	それぞれの理念、歴史、今日的な役割等施策や事業の最終的な目標
3		社会教育の法令等（国、県、市町村）	社会教育（生涯学習）に関わる各種法令の意味、経緯等
4		市町村の施策や事業	市町村の施策や事業のねらい、経緯、成果や課題等
5		国や県の施策や事業	国や県の事業のねらい、経緯、成果や課題等
6		予算編成	予算編成の仕組み、長期的、総合的な視点、編成、執行する際の工夫等
7		IT 機器の活用と情報管理	効率的な文書作成、情報収集と提供、プレゼンテーション作成、著作権、個人情報の管理等
8		コミュニケーション	接遇、相手に応じたコミュニケーション、自分の考えを伝える、話し合いの進行や合意形成
9	専門的な知識や技能に関わる研修項目	各種調査の作成と分析	地域の実態、ニーズ、課題を把握する調査の作成、実施、分析
10		住民主体の協働の町に関わる課題やニーズの把握と学習プログラムの企画・運営	課題やニーズの把握、具体的な学習プログラムの企画・運営
11		学びを活かしたまちづくりの参加型学習プログラムを企画・立案・運営する力	参加型学習プログラムの企画・立案・運営、ファシリテーターとして必要な知識や技能
12		事業評価と改善について	事業の目標設定、評価のあり方、評価に基づいた改善策の提案
13		社会教育計画の立案や地域づくりについて	中長期的、組織的、総合的な計画の立案と留意事項、地域づくりとの関連
14		地域指導者養成研修の企画・運営	地域指導者養成研修の企画立案、プログラム内容、運営スキル等
15		施設の効率的な経営	社会教育・生涯学習施設の効率的な運営方法、課題や解決策等
16		各部局や社会教育関係者の連絡調整のあり方	連携・協力のための利害の把握と交渉・調整

17		人的ネットワークの形成	情報交換、人脈の形成、キーパーソンの把握等 横のネットワークづくり
18		効果的な広報・周知	チラシや情報誌の作成、住民への周知の効果的な方法等
19		様々な事例等を情報収集	事業や施策等の先進事例の収集、整理、アイデアの導入等
20		地域の教育資源の発掘と人材育成のあり方	地域の教育資源の発掘と整理、人材情報の収集と育成、ボランティアの意義、知の循環型社会の理解と促進
21		学習活動の支援	学習活動における会場作り、様々な学習手法、プログラム等へのアドバイス
22		学社が連携・協力した組織的な教育活動	学社連携の事業（学校支援地域本部事業、教育振興運動含む）の理念、実践方法、成果や課題等
23	技能に 関わる 研修項目	各時期の教育に関する知識・技能	乳幼児教育、青少年教育、女性教育、成人教育、高齢者教育等
24		各領域の教育に関する知識・技能	社会体育、男女共同参画、視聴覚教育、環境教育、人権教育、まちづくり、国際理解、情報科学、文化財、芸術文化、ボランティア、図書館等
25		その他、共通して必要となる知識や技能	担当の職務内容に応じて、他に必要となるもの